

ご近所のお医者さん

692

岩本診療所院長 **岩本伸一さん** 一大阪市東成区

ACCP(人生会議)をご存知ですか

ACCP(アドバンス・ケア・プランニング)という言葉をご存じでしょうか。今後の治療・療養について、患者さんとその家族、そして医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスのことを指します。

ACCP(アドバンス・ケア・プランニング)に関わる人々で共有することが望ましいとされています。

人生の最終段階を迎えた約70%の患者さんが意思決定不可能といわれます。例えば、救急や死の前日など生命の危機に直面している場面では、医療

ケートで、ACCPについて「知っている」または「聞いたことがある」と回答された方は全体の10%前後で推移し、2018年から毎年の調査結果をみても全く増加していません。

ところが「ご自身の人生の最終段階における医療についてご家族と話し合うことについてどう思いますか」と質問すると、なんと87.3%の方が「大切なことだと

話し合う

内容は「本人の気がかりや意向」

望む最期 話す機会を

なことだと
思う」と回答され、特に70歳代で

「価値観や目標」「病状や予後の理解」「治療や療養に関する意向や選好」「医療・介護の提供体制」……などです。患者さんの同意のもと、健康状態や生活状況によって繰り返し見直され、ケ

行為をするかしないかのみに話題が限定され、ご本人の価値観や目標が話し合えない場合があり、後に希望されたケアができていたのか反省することもあります。

当初、患者さんとその家族が話し合いでつらい体験をする可能性も危惧されましたが、英国の研究ではそのようなマイナス面はなかったようです。

府医師会はACCPの周知、啓発に以前から取り組んでいます。府民アン

は93.7%が「大切なことだ」と回答されました。英語表記のために認知度が低いという指摘もありますが、普及に関しては「話し合う機会の提供」にかかりつけ医を持っていること、「ACCP」という言葉を知っていること、そしてその内容を知っていることが重要です。

皆さん、一度「人生の最終段階における医療」について大切な人と話し合ってみてはいかがでしょうか。

(府医師会調査委員会委員長)

